

大学院におけるリカレント教育に対する意識・満足度¹

宮脇啓透²、小森亜紀子³、飯生信子⁴

Awareness on and Satisfaction with Recurrent Education in Graduate School

MIYAWAKI Hiroyuki, KOMORI Akiko, IINO Nobuko

1. はじめに

リカレント教育 (recurrent education) とは、主に学校教育を終えた後の社会人が大学等の教育機関を利用した教育のことを指す。生涯教育を受けて発展した概念で、教養的な学習内容から広義には専門的な職業能力向上に至るものまで含まれる。日本におけるリカレント教育の例としては、職業能力向上に資する MBA (Master of Business Administrator) が挙げられる。また、厚生労働省の雇用保険制度の内の教育訓練給付金制度があり、社会人の教育受講の動機のひとつとなっている。教育訓練給付制度とは、働く人々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、受講費用の一部が支給される制度である。教育訓練給付金制度の対象としては、厚生労働省への申請と認可が必要となるが、現状大きく分けて①業務独占資格の取得のための講座、②デジタル関連の講座、③大学院・大学・短大・高専の課程、④専門学校の課程にわけられ、社会人がリカレント教育を受講する際の候補となっている。

また文科省は、令和 4 年度の予算として「リカレント教育等社会人の学び直しの総合的な充実」に対して 117 億円を予算化しており、高等教育機関に対して社会のニーズに対応した教育プログラム作りを推進している。

昭和女子大学でも、既存の大学院の福祉社会研究専攻の内に、男女の社会人を対象としたオンライン中心の 1 年制の社会人経営大学院コースを 2021 年度に設立した。ここでは福祉共創マネジメントと消費者志向経営の二つのコースがあり、現在、地方自治体や企業からの派遣生を含む 49 名の社会人が登録している。

このように自ら学び直しをしようとする社会人が様々な選択があるなかで、大学院でリカレント教育を受ける意識はどのようなものか、また社会人は大学院に対し、どのような教育や機能を求めるかを明らかにする必要がある。

¹ 本研究は 2022 年度現代ビジネス研究所学術研究の内容をまとめたものである。

² 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員/昭和女子大学グローバルビジネス学部客員教授

³ 昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 准教授、現代ビジネス研究所 事務局長

⁴ 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員

2. 先行研究

先行サーベイとしては、2016年に文部科学省が全国の大学に実施したアンケートで、社会人に対する教育の提供状況と大学が認識する学生が求める教育に関する内容の調査を実施している。また、2020年には、約5,000名の社会人に対して実施したアンケートで、学び直しの実施状況や教育機関に求める教育内容・方法などについて調査している。さらに、2021年には経団連が経団連企業510社に対して実施したアンケートで、大学が実施する社会人教育への期待やニーズについて調査している。

先行研究としては、日本の大学におけるリカレント教育を諸外国と比較したものや、リカレント教育が社会に与える影響を分析したものなどがある。また、看護・保育・図書館司書等の専門職別のリカレント教育のニーズや効果・課題等を分析した研究、仕事復帰を目的としたリカレント教育の現状と課題等を分析した研究がある。

これらの状況を踏まえて、当研究においては、ビジネス・マネジメント系の大学院に対する社会人の期待と満足度、受講後の環境の変化の現状について昭和女子大学の社会人教育課程に在籍中や修了した社会人を対象に把握し、その分析を行う。また一般的な社会人が、どのような動機でどのような教育機関を選択し、どのような成果を得ようとしているのかを把握・分析する。

3. 研究方法

本研究では、昭和女子大学の社会人大学院修了生・在校生を対象に行ったアンケートデータおよびWebアンケートの登録モニターに対して行ったアンケートデータを分析した。

アンケート項目は、表1の項目からなる。昭和女子大学の大学院生向けアンケートとWebアンケートの登録モニター向けアンケートのうち社会人大学院経験者についてはおおよそ同じ設問⁵で調査を行っている。

表1 アンケート項目

	社会人大学院経験者	社会人大学院希望者
属性情報	年齢、性、居住地、職業、 役職、家族構成	年齢、性、居住地、職業、 役職、家族構成
基本情報	専攻分野、 大学院での経験	専攻分野、 大学院で経験したいこと
学習環境	勤務状況、職場の対応、 費用の工面	大学院進学に必要な環境
自己評価	進学の実績、得られた能力、 大学院の満足度、職業満足度	-

(注) 社会人大学院経験者には、Webアンケート登録モニター、昭和女子大学の社会人大学院生

⁵ 昭和女子大学社会人大学院修了生・在校生に対しては入学年度、専攻等が予めわかっているためWebアンケート登録モニター向けとは設問および選択肢が違うものを用いた。

① Web アンケート登録モニター

アンケートは 2 段階方式で行った。スクリーニング調査では、2022 年 8 月 10 日～17 日の約 1 週間で 83,732 人への配信を行い、17,518 人からの有効回答があった。対象とするモニターは、25 歳～79 歳の東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県在住の男女とした。回収の割合が、実際の人口構成に近くなるよう、2020 年国勢調査「都道府県，年齢（5 歳階級），男女別人口－総人口，日本人人口（2020 年 10 月 1 日現在）」の割合で、性（男性、女性）・年代（25-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、60-79 歳）別人口に割り付けて回収している。

表 2 スクリーニング調査の回答割合(スクリーニング調査 n=17,518)

	2020年国勢調査		スクリーニング調査	
	男	女	男	女
25-29歳	4.3%	4.1%	4.4%	4.2%
30-39歳	9.1%	8.6%	9.1%	8.7%
40-49歳	11.3%	10.8%	10.8%	10.8%
50-59歳	10.1%	9.5%	10.2%	9.6%
60-79歳	15.4%	16.7%	15.5%	16.8%

(注 1) 2020 年国勢調査の各割合は 25 歳～79 歳の人口のうちその性・年代が占める割合を示す。

(注 2) スクリーニング調査の各割合は有効回答 17,518 人のうちその性・年代の回答者の割合を示す。

本調査では、社会人大学院（修了生、在學生、科目履修生）に入学経験がある人、3 年以内に社会人大学院に入学を予定している人を対象とした。スクリーニングで割り付けた、性・年代別出現率にあわせて本調査での割付を行っている。社会人大学院（在學生を含む国内外の大学院入学経験者、国内外の科目履修生）経験者は、約 2.2%となった（性・年代別の割合は表 3 の通り）。3 年以内に大学院進学を希望する人は、約 4.6%となった（大学院入学経験者との重複者を含む）。

スクリーニング調査・本調査をあわせて本稿では「Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)」とする。

表 3 本調査対象者（社会人大学院入学経験者）（n=391）

	男	女
25-29歳	4.3%	5.9%
30-39歳	15.3%	18.9%
40-49歳	16.4%	10.0%
50-59歳	9.5%	4.9%
60-79歳	10.0%	4.9%

（出所）Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

表 4 本調査対象者（3年以内に社会人大学院希望者）（n=808）

	男	女
25-29歳	8.9%	8.7%
30-39歳	18.1%	16.5%
40-49歳	14.1%	11.9%
50-59歳	7.1%	3.7%
60-79歳	4.6%	6.6%

（注）社会人大学院入学経験者との重複者も含まれる。

（出所）Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

② 昭和女子大学社会人大学院生

2021 年度および 2022 年度入学の福祉共創マネジメントコース、消費者志向経営コース、履修証明プログラム生、科目履修生を対象に大学事務局を通してメールで依頼し、Google Forms で回答を得た。期間は 2022 年 8 月 31 日から 9 月 16 日の約 1 ヶ月間で、110 人に依頼し 36 人（回答率 32.7%）から回答があった。本調査結果を本稿では「昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)」とする。

4. 結果と考察

① Web アンケート登録モニター

社会人大学院（修了生、在学学生、科目履修生）に入学経験がある人が、大学院に入学した平均年齢は 32.9 歳（20 代が 52.3%で最多、30 代が 24.7%で次ぐ）で、大学院を希望する人の平均年齢は 40.0 歳（30 代が 38.1%で最多、40 代が 30.7%で次ぐ）となっている（表 5）。大学院入学経験者の専攻分野は、専門職分野専攻が 69.1%、学術分野専攻が 30.9%で経営分野の専攻が 21.4%と最も多かった。大学院入学希望者の専攻分野は、専門職分野専攻が 74.7%、学術分野専攻が 25.3%で法学分野の専攻が 21.4%と最も多かった（図 1）。

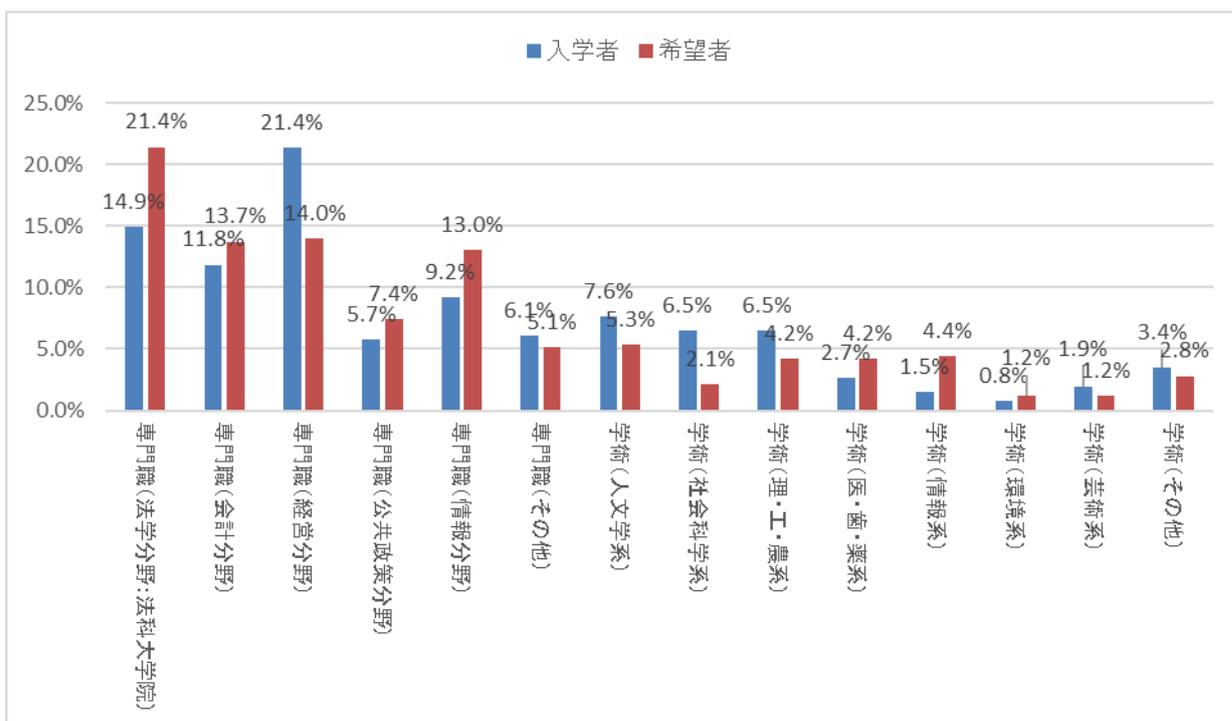
大学院入学経験者が大学院で経験したことは、「修士論文の執筆（56.9%）」「事例研究・ケーススタディ（48.5%）」「修士論文以外のワーキングペーパー等の執筆（47.7%）」が多

かった。大学院入学希望者が大学院で経験したこととして「修士論文の執筆（47.4%）」「事例研究・ケーススタディ（40.2%）」「修士論文以外のワーキングペーパー等の執筆（37.7%）」が多かった（図 2）。

表 5 社会人大学院入学経験者(n=235)／希望者(n=430)の性・年齢別割合

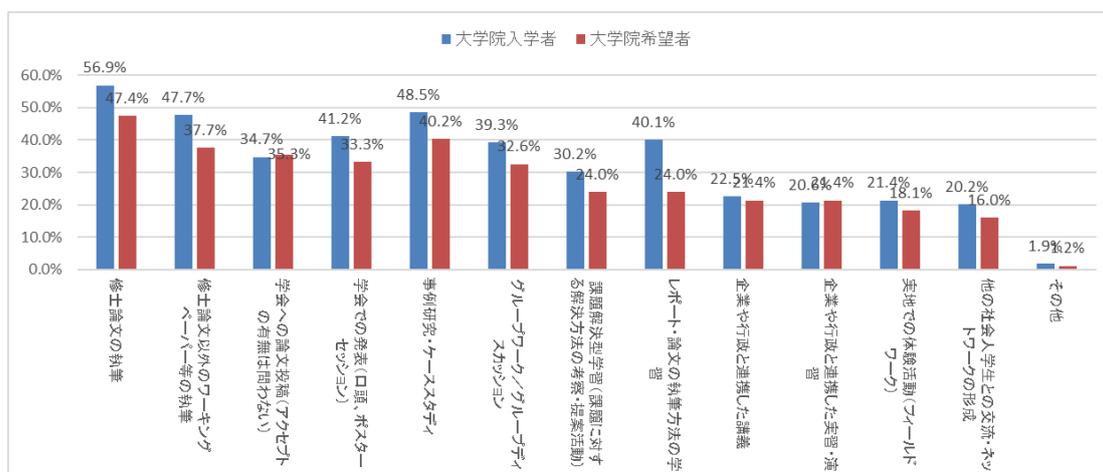
	入学者 (n=235)		希望者 (n=430)	
	男	女	男	女
25-29歳	29.4%	23.0%	14.9%	13.2%
30-39歳	14.0%	10.6%	35.3%	34.5%
40-49歳	7.7%	4.3%	32.8%	23.4%
50-59歳	2.1%	3.0%	10.6%	6.4%
60-79歳	2.1%	3.8%	5.1%	6.8%

(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)



(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

図 1 社会人大学院入学経験者(n=262)／希望者(n=430)の専攻分野



(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

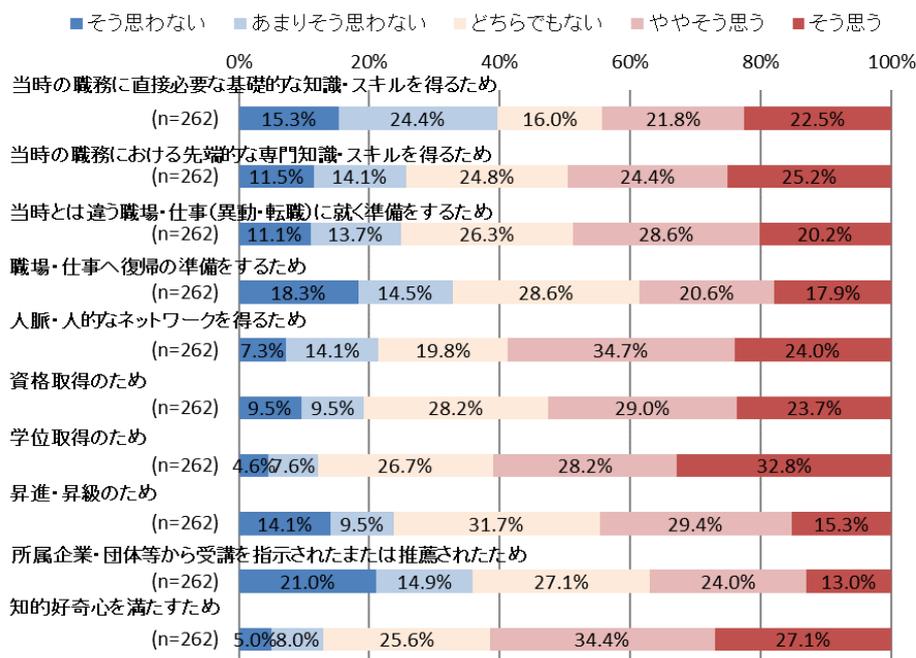
図 2 社会人大学院入学経験者が経験したこと(n=262)/希望者が経験したいこと(n=430)

大学院入学経験者の大学院での経験に対する主な主観として、学んだ動機、大学院で得たもの、大学院での満足度を掲載する。

学んだ動機としては、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「知的好奇心を満たすため (61.5%)」「学位取得のため (61.1%)」「人脈・人的なネットワークを得るため (58.8%)」の順に多かった (図 3)。

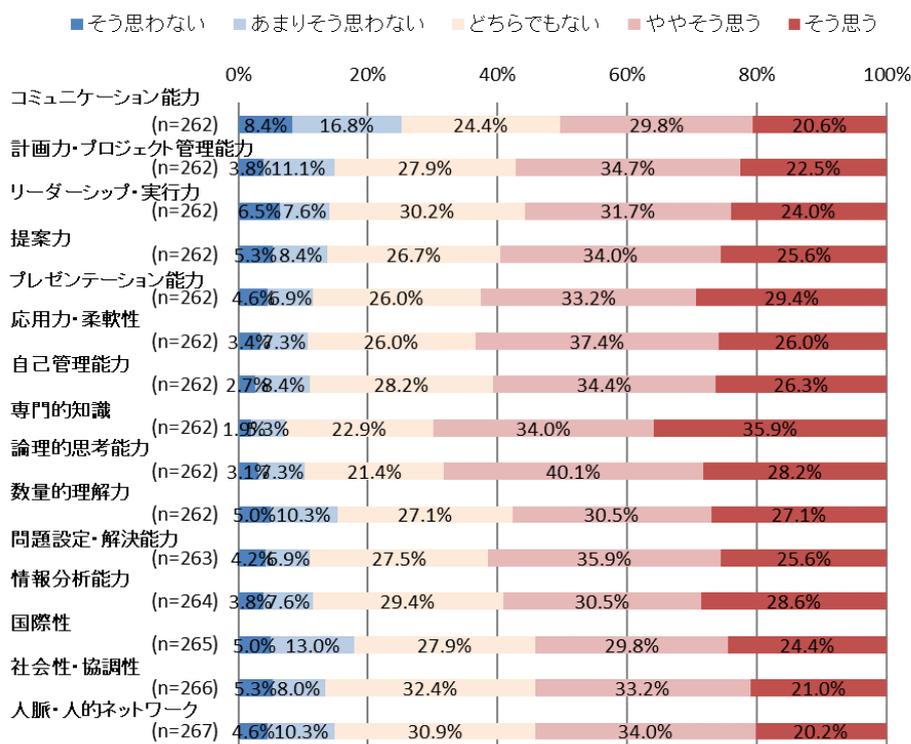
大学院で得たものは、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「専門的知識 (69.8%)」「論理的思考能力 (68.3%)」「応用力・柔軟性 (63.4%)」の順に多かった (図 4)。

満足度は、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「知的好奇心を満たすことができた (63.0%)」「必要とするスキルが得られた (60.3%)」「必要とする知識が得られた (57.6%)」の順に多かった (図 5)。



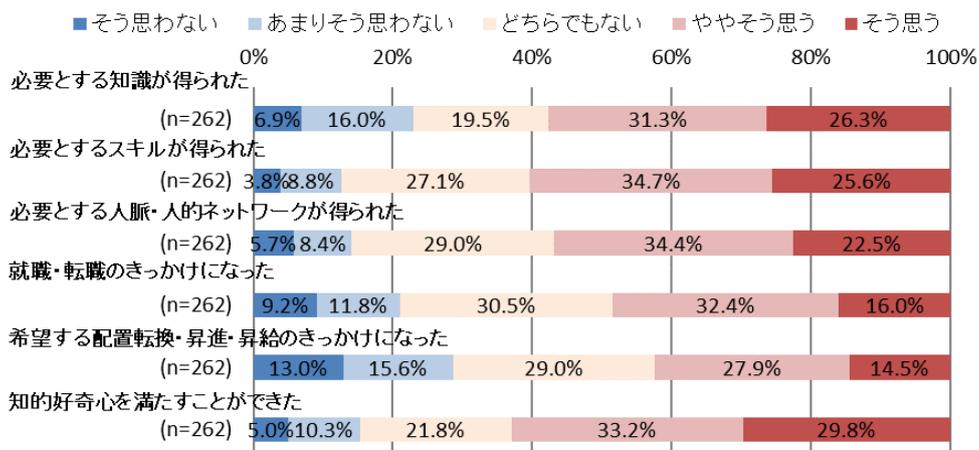
(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

図 3 社会人大学院入学経験者(n=262)の学んだ動機



(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

図 4 社会人大学院入学経験者(n=262)が大学院で得たもの



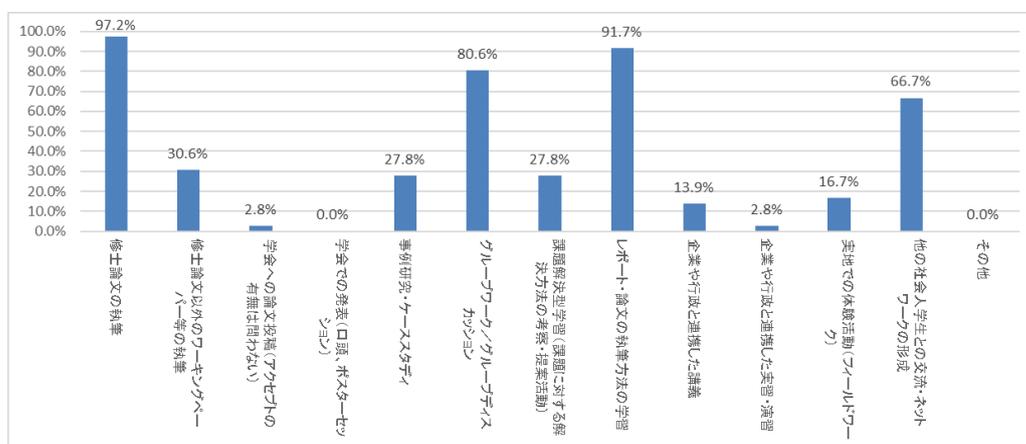
(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

図 5 社会人大学院入学経験者(n=262)の満足度

② 昭和女子大学社会人大学院生

専攻分野は、消費者志向経営コースが 33.3%、福祉共創マネジメントコースが 61.1%、科目履修生 2.8%、履修証明プログラム生 2.8%であった。

大学院で経験したことは、「修士論文の執筆 (97.2%)」「レポート・論文の執筆方法の学習 (91.7%)」「グループワーク／グループディスカッション (80.6%)」が多かった (図 2)。



(出所) 昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)

図 6 昭和女子大学社会人大学院生(n=36)が経験したこと

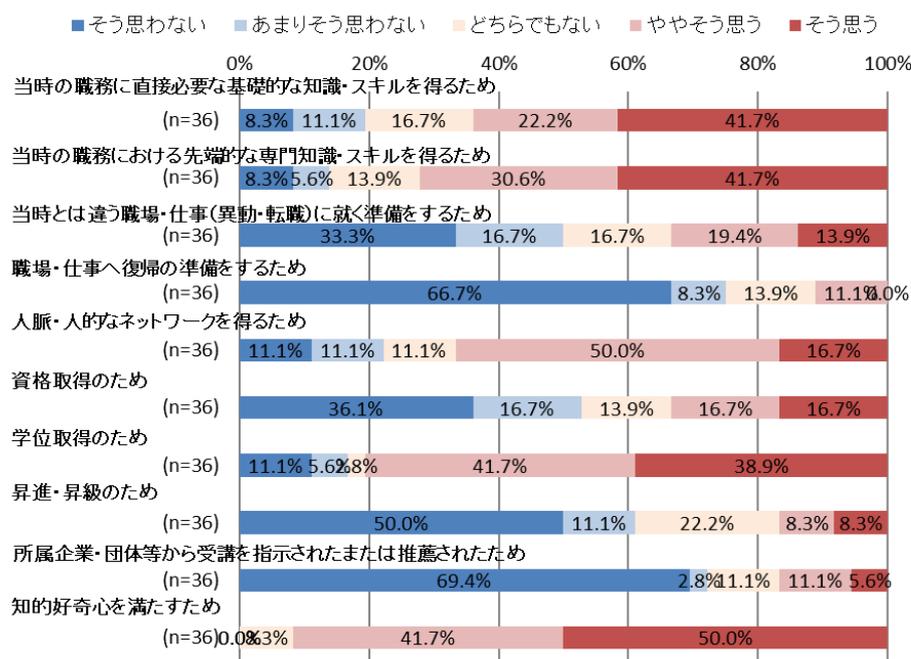
大学院入学経験者の大学院での経験に対する主な主観として、学んだ動機、大学院で得たもの、大学院での満足度を掲載する。

学んだ動機としては、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「知的な好奇心を満たすため (91.7%)」「学位取得のため (80.6%)」「当時の職務における先端的な専門知識・スキルを得るため (72.2%)」の順に多かった (図 7)。

大学院で得たものは、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「専門的知識 (97.2%)」「論理的思考能力 (86.1%)」「自己管理能力 (80.6%)」「情報分析能力 (80.6%)」の順に多かった (図 8)。

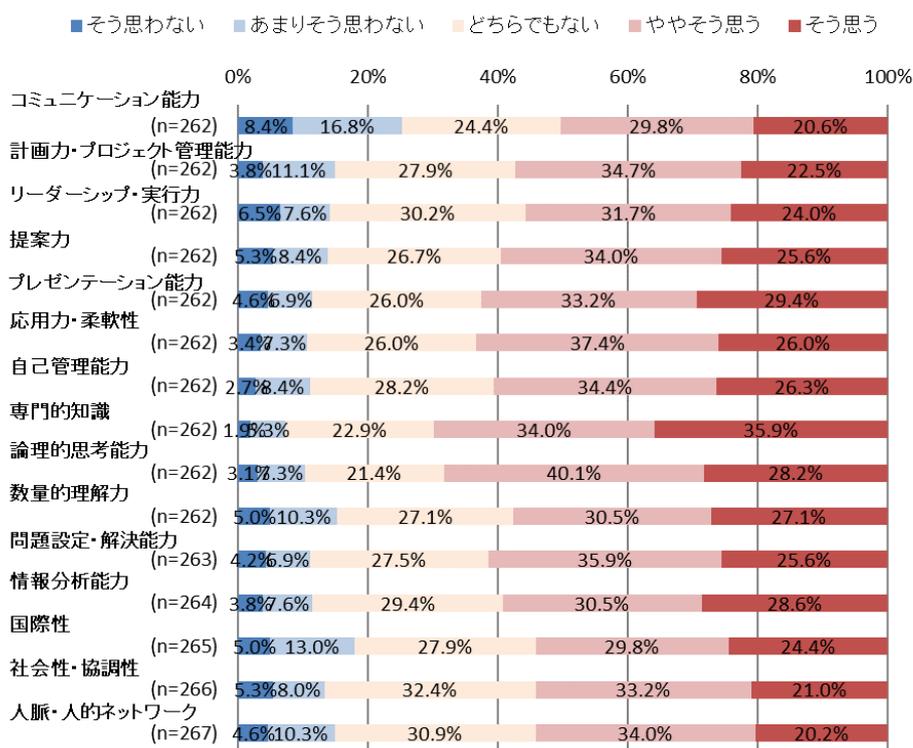
満足度は、「そう思う」「ややそう思う」をあわせた割合で評価すると「知的な好奇心を満たすことができた (91.7%)」「必要とする知識が得られた (86.1%)」「必要とするスキルが得られた (83.3%)」の順に多かった (図 9)。

昭和女子大学向け調査では、入学するにあたって良い影響を与えた項目を聞いている。「専攻コースに独自性があること (80.6%)」「すべてオンラインで講義が受けられること (72.2%)」「1年で修士が取れること (69.4%)」「社会人向けのコースであること (69.4%)」の順に多かった (図 10)。



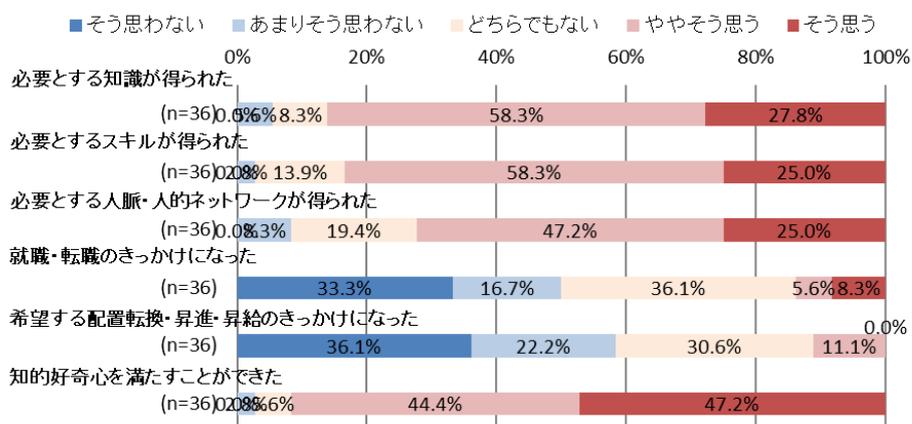
(出所) 昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)

図 7 昭和女子大学社会人大学院生(n=36)の学んだ動機



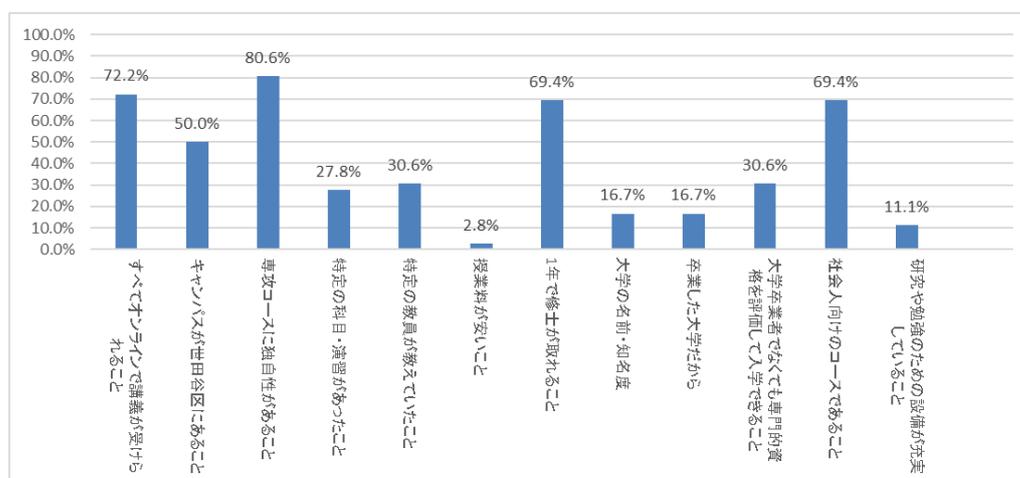
(出所) 昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)

図 8 昭和女子大学社会人大学院生(n=36)が大学院で得たもの



(出所) 昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)

図 9 昭和女子大学社会人大学院生(n=36)の満足度



(出所) 昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)

図 10 昭和女子大学社会人大学院生(n=36)が入学に良い影響をあたえた項目

③ 分析

社会人大学院生が、大学院で経験したこと (Q. あなたが大学院で経験したことを教えてください。) をダミー変数として、大学院での満足度や成果 (表 6) に対して信頼区間 95% の重回帰分析を行った。予測精度は高くても 0.2 程度であった。予測精度が 0.2 を超えるもので有意差があるモデルを掲載する。

「必要とする知識が得られた」においては、R2 乗が 0.24、有意水準が 0.000 であった。有意水準 0.05 で有効なものうち正の影響を示すものは「修士論文の執筆」「事例研究・ケーススタディ」「レポート・論文の執筆方法の学習」で、負の影響を示すものはなかった。

「知的好奇心を満たすことができた」においては、R2 乗が 0.27、有意水準が 0.000 であった。有意水準 0.05 で有効なものうち正の影響を示すものは「修士論文の執筆」「グループワーク/グループディスカッション」で、負の影響を示すものはなかった。

表 6 大学院での満足度や成果として聞いた設問

設問項目	選択肢(5件法)
必要とする知識が得られた	そう思わない
必要とするスキルが得られた	あまりそう思わない
必要とする人脈・人的ネットワークが得られた	どちらでもない
就職・転職のきっかけになった	ややそう思う
希望する配置転換・昇進・昇給のきっかけになった	そう思う
知的好奇心を満たすことができた	

(出所) Web モニター向け社会人大学院生満足度・期待度調査(2021)

表 7 重回帰分析「必要とする知識が得られた」(n=262)

R	R2乗	有意水準
0.49	0.24	0.000

	非標準化係数		標準化係数	t	有意水準
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	2.87	0.13	0.00	22.28	0.000
修士論文の執筆	0.45	0.16	0.19	2.84	0.005
修士論文以外のワーキングペーパー等の執筆	0.22	0.16	0.09	1.35	0.180
学会への論文投稿(アクセプトの有無は問わない)	-0.18	0.18	-0.07	-1.04	0.301
学会での発表(口頭、ポスターセッション)	-0.19	0.17	-0.08	-1.10	0.272
事例研究・ケーススタディ	0.41	0.18	0.17	2.27	0.024
グループワーク/グループディスカッション	-0.08	0.21	-0.03	-0.39	0.693
課題解決型学習(課題に対する解決方法の考察・提案活動)	0.41	0.24	0.14	1.73	0.085
レポート・論文の執筆方法の学習	0.58	0.21	0.22	2.76	0.006
企業や行政と連携した講義	-0.12	0.25	-0.04	-0.48	0.631
企業や行政と連携した実習・演習	-0.39	0.24	-0.12	-1.65	0.101
実地での体験活動(フィールドワーク)	0.03	0.26	0.01	0.12	0.904
他の社会人学生との交流・ネットワークの形成	0.18	0.21	0.06	0.87	0.386

(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

表 8 重回帰分析「知的好奇心を満たすことができた」(n=262)

R	R2乗	有意水準
0.52	0.27	0.000

	非標準化係数		標準化係数	t	有意水準
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	2.99	0.12	0.00	24.23	0.000
修士論文の執筆	0.57	0.15	0.25	3.73	0.000
修士論文以外のワーキングペーパー等の執筆	-0.06	0.15	-0.02	-0.37	0.712
学会への論文投稿(アクセプトの有無は問わない)	-0.06	0.17	-0.02	-0.33	0.738
学会での発表(口頭、ポスターセッション)	-0.01	0.16	0.00	-0.06	0.951
事例研究・ケーススタディ	0.25	0.17	0.10	1.42	0.158
グループワーク/グループディスカッション	0.51	0.20	0.20	2.53	0.012
課題解決型学習(課題に対する解決方法の考察・提案活動)	0.22	0.23	0.08	0.97	0.334
レポート・論文の執筆方法の学習	0.38	0.20	0.15	1.92	0.056
企業や行政と連携した講義	-0.35	0.24	-0.11	-1.43	0.155
企業や行政と連携した実習・演習	-0.29	0.23	-0.09	-1.28	0.203
実地での体験活動(フィールドワーク)	0.24	0.25	0.07	0.94	0.348
他の社会人学生との交流・ネットワークの形成	0.07	0.20	0.02	0.36	0.718

(出所) Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)

5. まとめ

Web モニター向け社会人大学院満足度・期待度調査(2021)では、社会人大学院生として選考を選ぶ場合、専門職分野が約 7 割であった。入学者の入学時の年齢は 20 代・30 代が中心であるが、これから入学を希望する者は、30 代・40 代が中心となっていることがわかった。入学した動機としては「知的好奇心を満たすため」が高い傾向にあるが、満足度の

調査においても「知的好奇心を満たすことができた」が高い傾向にある。これは昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)でも同様の傾向であった。昭和女子大学社会人大学院生満足度調査(2021)においては「すべてオンラインで講義が受けられること」の割合が72.2%と高いこともあり、社会人大学院の選択肢が増えるなか、こういったニーズを取り込んだカリキュラム構成が求められる。

<参考文献>

- ・株式会社エフフォース調査部門「EBPM をはじめとした統計改革を推進するための調査研究 (https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_chousa01_100000172_05.pdf)」(2023.1.10 確認)
- ・厚生労働省「教育訓練給付制度」(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html) (2021.12.5 確認)
- ・一般社団法人日本経済団体連合会「大学等が実施するリカレント教育に関するアンケート調査 (2021 年 2 月 16 日)」(2023.1.10 確認)
- ・文部科学省「令和 4 年度概算要求資料 リカレント教育等社会人の学び直しの総合的な充実」(https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt_kouhou02-000010167_1.pdf) (2021.12.5 確認)
- ・文部科学省「社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究 (平成 28 年 06 月)」(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1371459.htm) (2023.1.10 確認)